

ラグビー・ワールドカップ2019 みんなの応援、 待ってます!

去る8月23日、太田市のパナソニック・ワイルドナイツ・グラウンドにて、破竹の活躍を続けるワイルドナイツの最前線で活躍中の4選手にお集まりいただき、なんとお父さんが同じワイルドナイツの元選手という大泉町出身の女優・内藤理沙さんとのスペシャル対談が実現しました。



内藤：ワールドカップ開催まであと1年となりましたが今のお気持ちはどうですか？

田中：日本でワールドカップをするなんて僕らが小さい頃は考えられない事だったので、とても興奮しています。子供達が世界のスーパープレイヤーと触れ合えるのは夢のような事なので、日本の皆さんにはもっとワールドカップの事を知って頂いて、会場で直接試合を見て頂きたいなと思いますね。

内田：前回のワールドカップの時以上に、日本でラグビーを人気にしないといけない使命があるので、なんとしても勝たないと、という気持ちが強いです。

内藤：あの時の試合は父もテレビで何度も観て泣いてました(笑)

田中：僕もあれ見て泣きます。(笑) 自分では泣くから観ないようにしてるんですけど、小学校に呼ばれて行くと映像とか作ってくれて、それを影で見て、泣いてから舞台上立つ…。

内藤：これ、ラグビーが好きの方に話をすると、けっこう「あるある」らしくて。

田中：そうですね。いろんな試合を観て皆さん泣いてますね。(笑)

内藤：日本のチームの今の強さの秘密はなんですか？

田中：(日本代表の)前監督エディー・ジョーンズが言っていたのですが、外国のチームで100m走を100回やれと言うと、「誰ができるんだ」って帰っちゃうんだけど、日本選手は文句言いながらもやる。「やりきる」という事に関して、日本人は尊敬に値すると…。あのリーチ・マイケル選手ですら、エディーが監督やめた後、「ちょっと休ませて」って1年半くらい代表を離れた。ずっとやり続けられるのが日本の強み。エディーは、それくらい辛い事をしないと、世界では勝てないという事を教えてくれました。

内藤：現状の日本チームの課題は？

松田：日本人は身体が小さいので、それをスピードなどで補っていくのがポイントだと思います。

内藤：皆さんは4人とも、テレビドラマ・スクールウォーズのモデルとなった「伏見工業高校ラグビー部」のご出身と伺いましたが…。

田中：練習は本当にキツかったですね。例えば合宿だと、バスが来るまで永遠に走らなきゃいけないとか…。基本的には1時間とか2時間とか、先生が蹴ったボールを追いかけて、最後先生の話で泣いて終わるっていう。(笑)今笑っていますが、それは苦しかったです。

内田：全員が泣いたら終わるんですよ。身体もメンタルも両方鍛えられました。

田中：練習の感じは、松田と俺が10個くらい違うんですけど、全然一緒と言ってました。

松田：練習があまり良くなければ、先生が「残業！」と言って練習したりもしましたね。

金田：僕らはお仕置き練習「残」と呼んでいました。(笑)

内藤：それぞれのポジションで大変な事、面白い所は？

松田：スタンドオフという司令塔のようなポジションです。プレーの選択をゲーム中に判断するのが難しいところですが、ラグビーやっていて一番楽しいところです。

金田：僕はセンターでスタンドオフの横にいます。ボックスの中ではより、タックルをしたりだとか、ボール持って当たりに行ったりする事も多くて、フィジカル的に勝負するポジションです。

内田：僕はスクラムハーフというところで、瑛司にパスを出すポジションなんで、常に繋げながらフォワードも動かさないといけ



内藤 理沙
(うへらりしゃ)

大泉町出身/A型/女優/オスカープロモーション所属/ぐんま特使/ドラマ「Doctor-X 外科医-大門未知子~」、「ダメな私に恋してください」、「黒革の手帖」など数々の話題作に出演。2018年10月からは「リーガルV ~元弁護士小鳥遊翔子~」に出演。最近では「秘密のケンミンSHOW」に群馬県代表タレントとして出演し、話題になる。その他、バラエティ番組や映画など幅広く活動中。



田中 史朗
(たなかふみあき)

ポジション：SHスクラムハーフ
京都府出身/O型
京都産業大学出身
太田市在住
日本代表
日本人初の世界最高峰の海外ラグビーリーグ「スーパーラグビー」に挑戦。2015年ラグビーワールドカップでも大活躍し、2019年大会も期待される。
スーパーラグビー：サンウルブズ、日本代表としても活躍中。



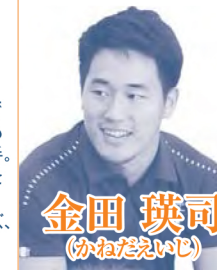
内田 啓介
(うちだけいすけ)

ポジション：SHスクラムハーフ
志賀県出身/AB型
筑波大学出身
日本代表
高い身体能力と整った顔立ちでラグビーファンはもちろん、子どもや女性にも幅広く人気が高い選手。今シーズンはゲームキャプテンを務めることも多い。
スーパーラグビー：サンウルブズ、日本代表としても活躍。



松田 力也
(まつだりきや)

ポジション：SOスタンドオフ
京都府出身/O型
帝京大学出身
日本代表
層の厚いメンバーの中、一年目からレギュラーに定着。
帝京大学で1年から出場し、在籍中4連覇を果たす。
スーパーラグビー：サンウルブズ、日本代表としても活躍中。



金田 瑛司
(かねだえいじ)

ポジション：SOスタンドオフ
CTBセンター
京都府出身/A型
帝京大学出身
大泉町在住
U20日本代表
選手・スタッフからの信頼が厚く、人望の厚い選手。
1年目からデビューを果たし、チームの核となる存在に。
帝京大学時代に4連覇を果たし、最高学年時には副将を務める。

なくて結構難しいです。自分で当たりに行くとかよりも、配置させて当たりに行かすとかディフェンスを入らせるといった、頭を使わなくては行けないという事をパナソニックに入ってから知って、難しさと楽しさを両方感じています。

田中：僕は内田と同じポジションですが、もう彼は能力すごく高いのでそのプレッシャーが凄くて、お互いにライバル的な感じです。楽しいですがプレッシャーが凄いです。腕とか足とか、スクラムハーフでこの体は世界基準なので、日本代表の監督に話す時も「内田は良い」とは常に言っていますね。足も速いですし。

内田：いや。ほんと、恥ずかしいですねえ…。(笑)

田中：内藤さんのお父さんは、どこのポジションだったんですか？

内藤：ボックスの、センターです。でも今の選手の方が体が強く作られてるから全然違うって父は言っていました。

事務局：それではここで、選手の方から内藤さんに逆インタビューしていただきましょう！

田中：中学校とかはどこだったのですか？

内藤：大泉南中です。

田中：今でも僕達は町内の中学校に指導に行ったりしていますよ。大泉には、どのくらいのペースで帰ってきているんですか？

内藤：お盆やお正月には必ず帰ってきます。あと、2か月に1回くらいは。

選手一同：ドクターXすごく見てましたよ。

内藤：ありがとうございます。

内田：芸能界にはイケメンも沢山居ると思いますけど、お付き合いするのはどういう人がいいですか？

内藤：前はひょろっとした人が好きだったんですけど、ラグビーを観てからは、こういう人じゃないと守ってもらえないな、と思うようになりました。

選手一同：おー！(笑)

内藤：ちゃんとラグビーを観るようになったのはここ3年くらいなんです。秩父宮の試合の時などはなるべく行くようにしています。クラブ会員にも入って、会員のTシャツを着て応援していますよ！

選手一同：ありがたいですねー。

内藤：ラグビーの魅力について教えてください。

松田：15対15で人数が多いというのはご存じかと思いますが、何も付けずに生身の身体でタックルをしてぶつかり合うところは唯一のスポーツだと思います。ぶつかり合うけど格闘技ではなくて、球技の要素もあって、だれでも楽しんでもらえると思います。
金田：スクラムを組んだり、大きい人達が激しい当たりをしたり、足が速いウィングというポジションもあったり、様々なタイプの選手が活躍する面白さもあると思います。

内田：「ワン・フォア・オール、オール・フォア・ワン」という言葉がありますが、まさにその通り自己犠牲のスポーツで、魂でやるような、高校時代に「信は力なり」をたたき込まれ、これがなかったらどんなに上手くても、勝てなかったと思います。

事務局：それでは最後に、大泉の皆さんに向けてのメッセージを。

田中：人と人がぶつかって、勝ち負けが決まって、試合が終わるとノーサイドの精神で、国も敵も関係なく会場全体が盛り上がるラグビーの楽しい雰囲気、出来れば会場で観て頂きたいです。会社は大泉町にありますので、地域一帯となって日本ラグビーと地域を盛り上げて行いましょう！

内田：もっと交流したいですし、ラグビーを知って頂き、愛されるチームになりたいと思っています。その為にも地域の皆さんと接していきたいですね。

金田：トップリーグのチームがある地域は日本でも限られているので、大泉や周辺地域がラグビーを通じて、盛り上がってほしいなと思っています。

松田：日本はまだラグビーの認知度が低い。人気が出るように頑張りますので、ぜひグラウンドに足を運んでください。ファンと選手の距離が近いのもラグビーの魅力です。そういった所も体験して頂ければ、どんどん広がっていくのではないかと思います。

内藤：野球ファン、サッカーファンというタレントさんは多いけど、私はラグビー好きの女優として、大泉町を代表して少しでもラグビーを広められたらと思っています。一緒に日本チームを応援しましょう！

